

- 2P  
■ 3P  
■ 4P  
■ 5P | ・地域と共に歩む自衛隊
- 6P | ・蛇口からあふれるぼくらの夢・希望
- 7P | ・土谷耕治町長が再選されました
- 8P | ・まちづくりに町民の皆さんの意見を反映させるため「美幌町自治推進委員会」の委員を募集します
- 9P | ・町の話  
・児童生徒の悩み、家庭での教育「悩みをご相談ください。」  
・住宅用火災警報器の設置義務スタート！
- 10P  
■ 11P  
■ 12P  
■ 13P | ・6月のお知らせ
- 14P | ・歯の衛生週間スローガン
- 15P | ・コミュニケーションボードをご利用ください
- 16P | ・美幌町住宅用太陽光発電システム設置モニター  
・教科書展示会  
・狂犬病予防集合注射のお知らせ
- 17P | ・総務省テレビ受信者支援センター  
・子ども手当は引き続き支給されます  
・閉じこもり、引きこもりでお困りの方へ
- 18P | ・健康メモ
- 19P | ・けんしんであんしん！  
・6月の健康カレンダー  
・ママといっしょ
- 20P | ・交・通・安・全・メ・モ  
・地域安全ニュース  
・平成23年 消防演習開催について  
・『危険物安全週間』の実施
- 21P | ・図書館だより  
・地域包括支援センターだより  
・＝臨時職員を募集します＝ 図書館  
・6月の納期
- 22P | ・くらしの情報  
・マナビティーサークル紹介
- 23P | ・消費生活相談Q&A  
・文化ホールふおと『録』2011
- 24P  
25P | ・としょかん通信
- 26P | ・博物館だより  
・寄附  
・人のうごき（HRに4月末人口掲載済）  
・有料広告

# 地域と共に歩む

## 陸上自衛隊美幌駐屯地

3月11日に発生した東日本大震災に伴い、被災された多くの方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を願ってやみません。今年で60周年を迎えます。

この間、私たち町民は身近な存在として、自衛隊と共に歩んできました。今月は、昨年末策定された新たな「防衛計画の大綱」とそれに基づく「中期防衛力整備計画」が与える美幌駐屯地への影響と、東日本大震災に際し派遣された470名の隊員さんの被災地での活動状況についてお知らせします。



### 駐屯地と町との歩み

昭和25年に勃発した朝鮮戦争を機に国内の治安維持、防衛のために、同年「警察予備隊」の設置と予備隊員7万5千人が全国の主要箇所に設置されることとなったことから、地域振興のために駐屯を希望する市町村が全国で相次いで名乗りを上げ、戦前に旧海軍航空基地があった美幌町も誘

致に向けて激しい活動を展開いたしました。その結果昭和26年、国から「美幌町への駐屯」との吉報があり、約3,000人の部隊が美幌に駐屯しました。

その後、「保安隊美幌駐屯地」へと改称を経て、昭和29年、現在の「陸上自衛隊美幌駐屯地」となりました。以来、60年にわたり、北の守り、道の精強部隊としてその任務

# 地域と共に歩む自衛隊



平成22年6月29日、山本第1特科団長（中央）竹末副団長（左）及び西島第1特科群長（右）に対し期成会会長・副会長・理事及び議会議員・協力諸団体等29名の方々の参加により第101特科大隊の存置及び充実整備について陳情

日本の安全保障の指針となる平成23年度以降に係わる10年間の「防衛計画の大綱」と大綱に基づく「中期防衛力整備計画」（平成23年度～平成27年度）が昨年12月17日に閣議決定されました。

内容については、今後の安全保障及び防衛力のあり方について、「基盤的防衛力」から「動的防衛力」に移行することとなりましたが、オール北海道の組織である「北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会」及び美幌町の自衛隊協力



「陸上自衛隊美幌駐屯地部隊充実整備期成会」陸上幕僚監部 渡辺幕僚副長に対して美幌駐屯地の充実整備について陳情（平成22年11月19日）

を果たして参りました。現在美幌町に駐屯している部隊は「第6普通科連隊」と「第101特科大隊」を主力として、10個の部隊が駐屯しています。

現在も旧海軍航空隊に因み、戦艦の船先の形をした本部隊舎を使用しており、約70年の歴史と伝統のある駐屯地であります。

隊の体制や装備の整備水準など防衛力の基本的指針となる平成17年度以降に係る「防衛計画の大綱（防衛大綱）」を策定いたしました。

この計画により陸上自衛隊の自衛官の定数は16万人から15万5千人に削減されることになり、この結果、道内では平成16年に第5師団（帯広市）、平成20年に第11師団（札幌市）がともに旅団となり所属する自衛官の数は、ほぼ半減してしまいました。

第5師団に所属していた美幌駐屯地の部隊も当然その影響を受け、旅団化により第5特科連隊第3大隊が廃隊となるなど約230名程の自衛官の削減が行われました。

さらに国は、平成22年度末までに戦車や火炮などの削減を打ち出し、美幌に駐屯している第101特科大隊の削減が大変危惧されておりました。

このような状況の中で、北千歳に有ります第1特科群の所属部隊である第103特科大隊（北千歳）が平成23年4月21日付で廃隊されましたが、平成23年度以降に係わる防衛大綱の見直しによる、次期中期防衛力整備計画（平成23年度～平成27年度）5カ年の中では、第101特科大隊の削減等は見送られ現体制が維持されることになりました。

第5旅団の改編は、帯広駐屯地のコア部隊（即応予備自衛官をもって編成する部隊）

から、常備自衛官をもって編成することにより、第5旅団の即応性を向上させるため、美幌駐屯地の第6普通科連隊も4個普通科中隊から3個普通科中隊編成に改編され、第4中隊が廃隊されましたが、この廃隊による美幌駐屯地の隊員の削減は微減に止まり、人員の大きな変化は有りませんでした。

第5旅団も平成23年3月末の改編予定が東日本大震災の影響により、4月22日まで延期され改編されました。

諸団体で構成する「陸上自衛隊美幌駐屯地部隊充実整備期成会」等の地域一丸となった陳情活動により、当初1万人とも言われていた削減が、編成定数15万5千人（即応予備自衛官7千人含む）から15万4千人（即応予備自衛官7千人含む）となり、前回の大綱から1千人の微減に止まり、北海道の大幅な人員減は避けられました。

オール北海道の立場として、平成21年5月14日に開催された北海道の自衛隊体制維持を求める総決起大会に向けた署名活動では、美幌町民の皆様から約1万3千人もの（全道で約23万人）署名を頂き、全道でもトップクラスの署名活



# 地域と共に歩む自衛隊



「北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会」防衛問題セミナーに、千歳市長(会長) 旭川市長(副会長)、土谷町長(副会長)がパネリストとして参加し、北海道の自衛隊の位置付け、役割等について討論(平成23年2月24日)

動となりましたことに深く感謝を申し上げます。  
 今後の具体的な陸上自衛隊駐屯地の削減及び統廃合等については今のところ示されておりませんが、今後10年間の防衛大綱の中で戦車、火砲がそれぞれ200両・門削減されることから、美幌駐屯地への影響も懸念しているところであり、今まで以上に情報の収集に努めると共に、引き続き美幌駐屯地の充実整備のため、従来にも増して取り組みを強めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## これからも共に歩む自衛隊

美幌駐屯地の隊員は平成8年頃には約1,350人でありましたが、平成23年3月末現在では約1,000人を割り込み、年々隊員数が減少傾向にあります。  
 私たち町民は地元で部隊があるおかげで、災害時などに自衛隊の支援を速やかに受けられることが出来る安心感があります。  
 記憶に新しい平成16年の大雪災害での道路の排雪や、18年の大規模断水時の給水の手助けをしていただいたのも自衛隊でした。

今後さらに、自衛隊の削減が実施されると2市8町地域の安全・安心に重大な影響を及ぼし、また地域活動などでのマンパワー(人の力)と、財政・経済の落ち込みや地域活動の停滞など、町にとつては大きな打撃となり、今後のまちづくりに大きく影響を及ぼします。



びほろ冬まつり支援で、子供たちのために滑り台を作成する隊員(平成23年1月28日～2月5日)



びほろ冬まつりに多数の子供たちが来場し大いにぎわった会場(平成23年2月6日)



美幌町主催による、美幌町出身の自衛隊入隊予定者をはげます会を開催し、今年は19名の方が入隊予定者として、入隊にあたっての抱負を力強く語りました。(平成23年3月6日)

## 東日本大震災での美幌駐屯地隊員の活動状況(美幌駐屯地隊員470名が被災地に出勤)

3月11日に想像を絶する甚大な被害をもたらした東日本大震災に伴い、美幌駐屯地から被害の激しい石巻市(宮城県)に向け、3月14日の午後1時に先発隊15名が出発、その後第6普通科連隊と同行部隊が、3月15日午前1時に多くの器材を積載した87両の車両と隊員333名が、隊員の家族や協力諸団体が送る中、出発しました。

3月11日に想像を絶する甚大な被害をもたらした東日本大震災に伴い、美幌駐屯地から被害の激しい石巻市(宮城県)に向け、3月14日の午後1時に先発隊15名が出発、その後第6普通科連隊と同行部隊が、3月15日午前1時に多くの器材を積載した87両の車両と隊員333名が、隊員の家族や協力諸団体が送る中、出発しました。



3月15日午前1時に駐屯地正門を出発する第6普通科連隊主力(約333名)(写真は1中隊)

# 地域と共に歩む自衛隊

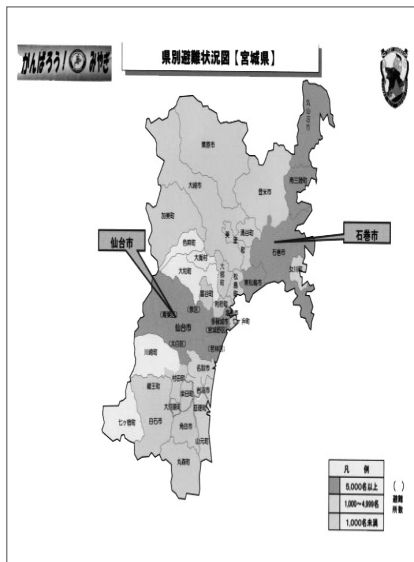


3月16日午前8時に駐屯地正門を出發する第101特科大隊主力(約120名)  
(写真は3中隊)

## 美幌駐屯地派遣隊員の人数及び任務等

4月18日現在

派遣部隊	派遣人数	災害派遣任務	搜索地域	宿营地
第6普通科連隊	340名	行方不明者の搜索 被災者生活物資輸送 公共场所の瓦礫除去	宮城県石巻東地区	宮城県大和町 総合運動公園
普通科直接支援小隊	10名			
第101特科大隊	113名	行方不明者の搬送・ 埋葬 行方不明者の搜索	宮城県北上川流域 (~4/6日) 宮城県釜谷地区 (4/7日~)	仙台駐屯地 (~4/6日) 宮城県涌谷 スタジアム (4/7日~)
特科直接支援小隊	7名	物資輸送(~4/8日)		
派遣人員合計	470名			



4月1日被災現場で火箱陸上幕僚長(中央)に状況を説明する照井連隊長(左)と田口第5旅団長(右)



懸命な搜索活動の中、行方不明者を搬送する隊員(6連隊)

**美幌駐屯地隊員の復興活動に感謝と支援を**

自衛隊発足以来、最大の活動となり日々厳しい状況での活動とお聞きしております。

行方不明者の搜索等の任務がいつ終了するか不明な状況での活動となり、今後も派遣隊員の士気が上がりますよう、町民の皆様の派遣隊員への激励とご家族に対するご支援をよろしくお願ひします。



宮城県石巻東地区で津波に流された車両内を搜索する隊員(6連隊)



宮城県石巻東地区で壊れた家屋を人力により搜索活動する隊員(6連隊)



宮城県釜谷地区で行方不明者の搜索をする隊員(101特科大隊)



宮城県松島基地での救援物資の輸送支援に当たる隊員(101特科大隊)